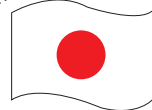


山梨県神社庁報



2月11日 建国記念の日

2月23日 天皇誕生日

3月20日 春分の日

4月29日 昭和の日

100

令和8年新春号 (第212号)



小室浅間神社 境内

山梨県氏子青年協議会	山梨県神道雅楽会	山梨県敬神婦人連合会	山梨県神職保護司会	山梨県女子神職会	山梨県教育関係神職協議会	山梨県神道青年会	山梨県神社総代会	神道教政治連盟山梨県本部	録事	主事	主事	参事	同	監事	同	顧問	総代理理事	総代会会長理事	同	指教委員長理事	協議員會議長理事	神政連本部長理事	同	同	同	同	同	同	支部長理事	本庁評議員理事	同	副庁長	庁長	
役員一同	役員一同	役員一同	役員一同	役員一同	役員一同	役員一同	役員一同	役員一同	佐藤忍	深澤宜彦	金子雄紀	飯田直樹	森岡博文	日原盛幸	根津昇進	羽中司武	石原英司	小尾東宮	土肥忠也	秋山元祝	金子一	桃井一郎	渡邊平彦	藤本文重	宮下貞夫	石原正隆	内藤寛芳	植松真興	高野洋	乙黒厚	上文利行	小山弘史	古屋真	古野正史

謹賀新年

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をしかけて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩
とに感謝し、明き清
きまことを以て祭祀
にいそしむこと

一、世のため人のために
奉仕し、神のみこと
もちとして世をつく
り固め成すこと

一、大御心をいただきて
むつび和らぎ、国の
隆昌と世界の共存共
栄とを祈ること



年頭挨拶

庁長 小佐野 正 史

新年あけまして

おめでとうございます。

皇紀二六八六年、令和八年丙午年を言祝ぎ皇室の弥栄と世界平和、そして皆様の平安をお祈り申し上げます。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては、本年第六十三回神宮式年遷宮における御木曳行事が斎行されます。令和十五年の遷御に向け、式年遷宮の諸祭祀事が順調に執り進められておりますこと、ご同慶の至りに存じます。皇室第一の重事、神宮無双の大宮とされてきた御遷宮の意義啓発に努めるべく、どうか皆様方には多大なるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神宮大麻暦頒布につきましては、増体に向け関係各位のご尽力を賜りました。尚一層の神宮奉賛と御遷宮の御盛儀を目指し、

更なる啓発に努めて参る所存であります。

また本年は昭和元年から起算して満百年、そして神社庁設立八十周年という節目の年を迎えます。神社庁に於いても、人々の精神的紐帯である神社の歴史と伝統を支えに、今一度我々が本来果たすべき使命と役割を確認し、五年先、十年先を見据え、更なる発展のために力を尽くして参りたく存じます。

過疎化による人口減少、少子高齢化により人々の価値観と生活の有り様が劇的に変化し続ける今、斯界を取り巻く現状は厳しさを増し、神社護持に大きな影響が及ぶことが憂慮されます。日々変化する社会の中で、この先も変わらぬ信仰を集め神社を護持していけるか否かは現代の我々の取り組みに懸かっている。いって過言ではありません。

皆様におかれましては、神社が地域で何か役割を果たしていくには、何をすれば最適かを地域ごとに計り、関係者一丸となつて地道に活動していくことが必要でありましょう。地域社会の心の拠り所としての役割を担ってきた神社の祭祀祭礼を賑々しく斎行し、神社と地域が元氣になればと考えます。

結びに、本年が午年にあやかつて我が国も飛躍し世の中がウマくいくことを切に願い、皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。





新春を迎えて

山梨県神社総代会

会長 小 尾 武

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

令和八年皇紀二千六百八十六年の輝かしい新春を迎え、皇室の弥栄と神社関係者の益々のご繁栄をご祈念申し上げます。畏くも天皇・皇后両陛下におかれましては、天機愈々麗しく日々御公務にあたり精励遊ばされておりますこと慶賀に堪えない次第です。

天皇陛下におかれましては、常に国民の幸せと国の繁栄、更に世界の平和をお祈りされておられますこと国民に心を寄せられておられることは誠に有難き幸せでございます。

昨年は各支部総代の皆様に山梨県神社庁の運営に多大なご協力を受け賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

三月七日に開催された山梨県神社総代会評議員会に於ける役員改選に当たり、再び神社総代会長の重責を担うことになりました。総代会役員の皆様と力を合わせてこれから重責を全うし

て参る所存であります。また、前期よりの希望でありました「総代研修会」を開催することが出来、総代会の和も一層強固になった感を受けました。ご出席くださいました総代各位には厚く御礼申し上げます。去年は、神社の祭典も賑わいを取り戻し、神輿渡御や露店に人が集まり以前のように賑わいを取り戻し、正に神社が明るくなったように感じます。

さて世の中は人口減少、少子高齢化、若い人達が故郷を離れてしまいつつあります。今以上に地域の環境を良くして、住みよい街づくりが大切ではないかと思えます。そのためには各地に祀られている神社を応援していかなくてはと思います。

神宮におかれましては、第六十三回式年遷宮の諸行事が始まりました。今年は遷宮諸祭・行事の中でも最も賑やかな御木曳行事がおこなわれます。一日神領民として多くの人々が参加の申し込みを済ませております。令和十年には鎮地祭が斎行され、

令和十一年には宇治橋渡始式が行われ次々と重儀が斎行されていきます。この御遷宮は御社殿をはじめ御神宝を新調する物理的な事柄のみならず清々しく常に若々しく命を更新し、永遠の命を継承する民族の心の原点を見つめ直す契機となり、さらには社会の結束を生み出し守り継がれた伝統文化を将来につなげる事が大きな意義であります。この先は幕財活動が推進されますが、神社関係者にはご理解賜り、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和七年度緑陰子供会が教化委員会立案のもと、七月十九日、笛吹市一宮町末木の両之木八幡宮で東八代支部が担当し実施されました。子供たちの楽しい姿を見させていただきました。本年は春先に開催予定でした。青年の教化に期待いたしております。本年の十一月に山梨県神社関係者大会がYCC県民文化ホールにて開催される予定です。併せてこの大会を機に神社界の諸行事に一元と成り取り組んでいきたいと存じますのでご理解協力をお願い申し上げます。不活動神社対策委員会においては、五月二十日東山梨支部管内塩山地区・大藤地区・神山地区・奥野田地区の神社を視察してきました。

十月二十一日には、上野原市桐原地区の山奥の高いところの神社を三社視察して参りました。人家がなく山里の元氣な神社に合祀との事でした。残念なことではありますが、不活動神社が解消出来ることは何よりです。

国旗掲揚運動については、先ずは総代・神社関係が率先して国旗掲揚運動に努めましょう。又、祝祭日の意義を知らしめることも肝要かと存じます。委員会を通し勉強する機会を予定したいと存じます。

私がいつも思うことですが、神社と総代は両輪といえども、総代は神職を補佐し神社活動に寄与する任務があります。信仰の空気の中でのご奉仕ですので穏やかに楽しく努めたいと存じます。

結びに神社に携わる我々の使命はいかに地元の神社や地域に伝わる伝統文化を守り、次の世代まで受け継いでいくか、神職・総代・神社関係者が日頃から連携を取り強固で良好な関係を築いていかなければならないと思えます。

今年一年、皆様にとりましてご健勝が多幸でありますことをお祈り申し上げあいさついたします。

本庁十月定例評議員会

本庁評議員

上文司

厚

神社本庁の十月評議員会が大講堂にて去る十月二十四日に開催された。

午後一時に開会儀礼、続いて鷹司尚武統理が挨拶。来年の神社本庁八十周年を迎えるに当たつての思い等を述べた。次に来賓の神道政治連盟の打田会長が挨拶。続いて西高辻信良議長、三輪田泰生・吉野利明両副議長が着席。諸報告、議事録署名人が指名された。次に「令和六年五月定例評議員会における評議員提出決議案等の処理結果」が取り上げられ、吉川通泰副総長が説明。報告の通り承認された。次に「令和六年度神社本庁業務報告」が上程され、吉川副総長が説明。質疑では、昨今の相次ぐ別表神社を含めた本庁離脱について本庁はどのような対応を行っているのか、何か打つ手はないのかなどの質問があり、離脱理由が明確ではない神社に対してはなす術がないなどの応答があった。また「総長選任に関する一連の諸問題について」に対しては、賛否両論の質疑、意見の応酬となった。これが長時間に及んだため、この件については議長が「議長預かり」とし

て次回の評議員会に報告する旨を述べて採決し報告の通り承認された。

暫時休憩の後、「令和六年度一般会計歳入歳出決算」等決算関連の六議案が一括上程され、田中総長が大筋を、岡本典正財政部長心得が詳細を説明、花山院弘匡監事が監査報告。質疑無く原案通り可決された。続いて上程された「令和七年度一般会計歳入歳出補正予算」も質疑無く原案通り可決された。他に二つの議案が異議無く可決され自由討論となった。自由討論では愛知県の小嶋今興議員から最近インバウンドの影響でお守りを「まとめ買い」している状況を憂慮している。慎重に対処するように要望するとの発言があった。また山口県の黒神直大評議員からは、総長選任に関する一連の諸問題についての打開に向けて役員会で協議し次回の評議員会での報告を要望する意見があった。自由討論は打ち切られ議事は終了となり、田中総長、鷹司統理の挨拶、神殿を拝礼し全日程は閉じられた。

総長選任問題については今回も紛糾したが、相反する双方ともにこのままでは駄目だとは思っているはずなので、次の評議員会には繰り返さないことを願う。

全国神社総代会大会

峡中支部 総代会会長

坂本

桂

去る十月二十八日、長野県長野市のホクト文化ホール（長野県県民文化会館）において第六十回全国神社総代会大会が開催され、本県からも五十四名の関係者が参加されました。

神社の総代を受けて長くなりますが、色々の都合により初めて全国大会に参加させて頂きました。

近年人口減少もありますが時代の流れといいますが、新築住宅には神棚も無い家が多く、神社関係等への関心も薄れているように感じている中、全国より千人を超える関係者が参加され、大きな大会に驚いたしだいです。

大会が始まり、式典前に清興として長野県指定無形民族文化財の「戸隠神社太々神楽」が戸隠神社楽部により披露されました。

続いて、祖父は言語学者の金田一京介氏、父は国語学者の金田一春彦氏という、長野県立大学学長の金田一真澄先生による「グローバルな視野で若者と一緒に地域の未来を」と題し記念講演があり、式典に入りました。式典も次第により進められ、開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱、

敬神生活の綱領唱和、会長式辞の後、神社功労者の表彰式が行われました。

表彰対象者は、全国で六十三名の方が表彰の栄を受け、県内では、一宮賀茂神社の川窪東海彦様と私の二名ですが本場に身に余る光栄でございました。続いて、来賓の祝辞として、神社本庁統理、神宮大宮司、神道政治連盟会長、長野県知事、長野市長、国会議員の皆様よりお祝いのお言葉がありました。

その後、受彰者謝辞、令和七年度の事業計画の報告、大会宣言と続き、次に次期大会開催地として、和歌山県の神社関係者より挨拶があり、最後に万歳奉唱、閉会の辞と進み、午後四時頃閉会となりました。

本県の参加者は、翌日戸隠神社、及び善光寺に参拝し、帰路につきました。



新穀感謝祭

甲府支部

上 村 朋 子

令和七年十一月十三日からの神宮新穀感謝祭に参加させていただきました。私にとって初めての伊勢神宮参拝が正式参拝となり、一般参拝よりも近い所から参拝出来るという事に感謝の気持ちを持ちながら参加させていただきました。

倭姫命をお祀りする倭姫宮への参拝。二千年以上前に天照大御神を伊勢へお連れになった倭姫命様と旅行前に知り、楽しみにしておりました。清浄な落ち着いた雰囲気でも心地良く参拝することが出来ました。

せんぐう館では遷宮に関わる様々な物が展示されており、とても見応えがありました。式年遷宮についてだけでなく伊勢神宮についてじっくり学ぶ事が出来る素敵な施設でした。

宿泊の鳥羽シーサイドホテルでは、お部屋からの海の景色も素晴らしく、夕食会での餅つきイベントや皆様のカラオケ、神職様方のお話など、楽しく過ごることができました。

翌日の外宮御垣内参拝は厳かで清々しい気持ちで参拝させていただきました。日常では感じ



ることのない清らかな空気を感じました。内宮御垣内参拝の後、御神楽の鑑賞。心に響く雅楽の音色、優雅な舞に時間を忘れ拝見いたしました。

おかげ横丁には、たくさんの人々が楽しんで散策されていました。一生に一度はお伊勢参り」と言われた江戸時代の人々も参拝の後、現代の私たちと同じように楽しめたのかと感じました。

帰りのバスの中でビンゴ大会はとても盛り上がり、日頃の神職様、関係者の皆様々の良いご関係を伺えるひと時でした。

参拝旅行の二日間、神職の皆様丁寧な案内でも気持ち良く楽しく過ごすることが出来ました。

神社庁主催の参拝旅行に初めて参加させて頂き、特別な体験が出来ました。また参加させていただきたいと思います。二日間、どうも有難うございました。

峡南支部

一宮賀茂神社 榎 宜

稲 葉 政 徳

去る十一月十三日、十四日の両日に亘り、山梨県神社庁峡南支部で神職、氏子総代、崇敬者合わせてバス二台、総勢五十一名で伊勢の神宮で行われている新穀感謝祭へ参加をして参りました。

この新穀感謝祭は伊勢神宮崇敬会が主となり国民総参宮趣旨のもと行われているもので、今回で第七十一回を迎え、今年も山梨県神社関係者合わせて約五百五十名の大人数で、神宮へ五穀の実りや大神様の御恵に感謝の真心を捧げてまいりました。

一日目は、旧国幣大社であり、北伊勢大神宮とも仰ぎ奉られる多度大社へ正式参拝し、峡南支部の参加者で多度の大自然を満喫し、その後毎年五月に行われる多度祭での上げ馬神事の坂を見学し、神馬である錦山と写真撮影を楽しみました。その後伊勢神宮に向かう人々への導きとして建てられた、関宿東の追分一の鳥居へ向いました。この鳥居は、現在二十年に一度行われ



る伊勢神宮の式年遷宮にあわせて建て替えが行われており、今の鳥居は平成二十七年に建てられたもので、鳥居の御用材は式年遷宮で建て替えられた伊勢神宮内宮宇治橋の内側にある旧材であり、住民総出のお木曳行事を経て建てられました。その後、鳥羽シーサイドホテルで懇親会をし、心行くまで飲み歌い、親睦を深めました。

二日目はいよいよ神宮へ向い、外宮、内宮両宮での御垣内参拝を行い外宮では厳かに神楽が奉納され、支部一同遷宮に向けての意識を高める事が出来ました。今後神道教化に努め、有意義な旅行になるよう微力ながら努力精進したいと存じます。

山梨県神社関係者大会

峡中支部 支部長 内 藤 正 隆

去る、令和七年十月十四日、山梨県神社関係者大会が、山梨YCC県民文化ホールに於いて開催され、約七百名が参加されました。

先立って神宮大麻暦頒布始祭が行われました。

神宮大麻は伊勢の神宮で頒布式が行われたのち、全国の都道府県に授けられ、本県でも同様に今回の頒布始祭を執り行います。後に各支部にて、更なる神事を執り行い、その後各神社へ授けられ、ようやく氏子へ頒布



される大変ありがたいお神札です。私たちは、お正月を迎える前に、神棚に新しい神宮大麻と、氏神様のお神札をお祀りし、「良い年でありますように」という願いを込めて、神さまに日々の感謝を捧げ、家族の幸せを願ってきました。

今回の神宮大麻暦頒布始祭では、我が峡中支部が担当となり、斎主小林英孝副支部長以下四名で奉仕させて頂きました。何れの神職も、殆どの祭祀は一人奉仕が多く、事前の習礼は欠かせませんが、支部内で集合し習礼を行い、互いに研鑽を深めるは非常に有意義と感じました。

当日は、皆さん緊張することなく、次第を進め、神道雅楽会による奏楽も厳かに、また女子神職会二名による「豊栄の舞」も優雅に奉納されました。最後に神社庁長より、神宮大麻が各支部長に授与されました。

その後、神宮参事の吉川竜実様より、天皇陛下の御聴許により、愈々遷宮の緒祭事が始まった旨の講演がありました。



更に休憩の後、関係者大会式典が古屋副庁長の開会の辞より始まり、神宮遥拝、国歌斉唱、金子教化委員長の先導の「敬神生活の綱領」へと進み、小佐野神社庁長より、式辞が述べられました。次いで小尾総代会長の御挨拶がなされた後、飯田参事から庁務報告が行われました。

功労表彰では、神社庁表彰規程に基づき委員会にて、厳正な選考・審査により決定した、令和七年度山梨県神社庁規程表彰者六名が紹介され、代表者が登壇し、小佐野庁長より表彰状が授与されました。また同じく委員会より厳正な選考・審査により決定した、令和七年度山梨県神社庁総代会規程表彰十七名と一団体が紹介され、代表者

が登壇し、小尾総代会長より表彰状が授与されました。次に、神社本庁規程表彰者四名が紹介され、代表者が登壇し、神社本庁総長田中恆清様より表彰状が伝達されました。次に、神宮大麻頒布優良奉仕者表彰に際し、七名と二支部、更に一団体が紹介され、代表者が登壇し、神宮大宮司久邇朝尊様（御名代参事吉川竜実様）より表彰状が伝達されました。全国神社総代会規程表彰では、十月二十八日の全国神社総代会にて二名が表彰される旨と、表彰者が紹介されました。最後にめでたく米寿・卒寿を迎えられた二名の神職に、小佐野庁長よりお祝いの記念品が送られました。

次に、祝辞として神社本庁総長田中恆清様、神宮大宮司久邇朝尊様（御名代参事吉川竜実様）神道政治連盟幹事長高麗文康様、神政連山梨県地方議員懇談会会長浅川力三様より祝意を賜りました。来賓の紹介後に、被表彰者を代表して、東八代支部の高野博夫様より謝辞があり、小尾総代会長の先導による聖寿の万歳がされ、小山副庁長の閉会の辞によって、大会は閉じました。

被表彰者抱負

神社庁規程表彰

一宮神社

榎宜 鈴 木 晃



この度は過分なる表彰の栄を賜り深く感謝致しております。

上野原市、小菅

村の一部の山間部に点在する四十数社に奉職する父の補佐をするため國學院大學の神職養成講習を受け奉仕する中に早や三十年となりました。

顧みれば県神社庁諸先輩、神職の方々より多くの指導を受け今日があると思います。

教化委員として二十数年活動する中、緑陰子供会では県内各地の神社を巡り多くの子供達、神社神職の方々の奉仕している話等伺い課題を共有することができました。

父も二十数年前に他界し現在は子(宮司)の補佐をしつつ、各奉職神社の護持運営を行っております。

先人達より受け継ぐ各神社に於いては役員、総代さん、又地域のの人々と共に例祭、諸祭等神事、又神宮大麻頒布等を通して

多くのご交誼を受けながら奉職することは正に精神的な糧となり同じ時代を生きる人達と共に人生を語り合うそのような時間も大切と感じております。

各神社のご神徳をいただき家々のご隆昌、人々の健康なる事地域の発展を祈るばかりです。少子高齢化の波には勝てず地域の小学校、中学校が閉校され市街地の学校にスクールバスにより送迎され教育を受けている現状です。

そのような中にあっても市の空き屋対策として田舎暮らし、人々の移住の促進、地域活性化を模索している様子であり協力を惜しまないつもりであります。上野原地域は仕事先が八王子、立川方面に勤務している人が多く、総代さんも若い人が多く連絡を密にして神事を滞ることなく進め、祈りの場を共に守る努力を進めなければなりません。日々の奉仕は決して一人の力では成し得るものではありません。

共に歩んでくださった方々のお陰で今日を迎えることができました。今回の表彰を励みとし神明の御心になうように精進し地域の安寧と発展のために一層努め、次代に継ぐべく一期一会の気持ちを持って日々を奉仕したいと思っております。

山梨県総代会規程表彰

下八幡二区長寿会

この度の神社庁総代会規程表彰の拝受につきましては、本会の地域の八王子・若宮八幡大神社に対しての日頃の微力ながらの協力活動が評価されたことと存じ厚く御礼申し上げます。

戦後しばらくして各地に老人会が組織されました。本会も老人会を母体に平成二十五年に「下八幡二区長寿会」として発足し、今年で創設十二年を迎えています。本会の活動方針は、住みなれた地域で会員相互の親睦、友愛、交流、研鑽を図ることを旨として会員の知識経験を生かした社会貢献活動、高齢者社会における生きがいと健康づくりに務めることとしており現在の会員数は七十名で活動しています。私たちの地域、甲斐市西八幡(旧玉幡村・旧竜王町)は元々農村地帯でしたが近年は市街化が進んでおり人口も微増傾向にあります。地区内には古くから「八王子・若宮八幡大神社」が置かれており、住民からは地区の守り神と慕われています。一月一日正月の元旦祭、七月の例大祭(子供神輿祭典)に始まり四季折々の地区内のさまざまな行事の開催場所として境内が利用されています。本会と神社



の関わりは氏子総代や自治会役員と共同で行う清掃活動です。広い境内は手を抜くと雑草やゴミでたちまち荒れてしまいます。地域の皆さんがいつでも気持ち良くお参りが出来るように日頃からは境内の清掃を心がけています。毎年七月と九月と十二月に行われる清掃活動には長寿会の奉仕活動の一環として参加しています。特に十二月は木々の落ち葉が枯葉となつて境内や周辺の用水路に溜まってしまふのでこの除去作業に苦勞します。しかし、雑草を取り除かれ枯葉が始末されて、きれいに掃き清められた境内を眺める苦勞も喜びに代わります。八王子・若宮八幡大神社がこれからも幾世代にわたって地域の守護神であるように長寿会も見守り活動に参加していきたいと思っています。

全国教化会議

教化委員会副委員長 篠原敬逸

十一月二十七、二十八日両日に神社本庁に於いて全国教化会議が開催された。

終戦八十年の節目の年を迎え「英霊顕彰の実践的教化手法について」を題材に、元靖國神社神職の野口次郎先生より基調講演を頂き、靖國神社、護國神社参拝運動を実践するという三年間の目標を掲げられた結果報告を分散会により各都道府県から発表された。併せて神宮の式年遷宮を迎えるにあたり、どのような問題があるか、課題があるかを報告、議論があった。山梨県の参加分散会にあっては秋田県より毎週ラジオ放送で神社のことを発信する報告、高知県よりYouTubeにて教化をしている事、長崎県からはSNSを使いこれから発信しようとする報告があった。私ども山梨県は春の靖國神社日帰り参拝や伊勢の神宮への親子参宮団旅行を実施していることを報告した。

高齢化による祭典の存続危機があることがあり、これからは若い世代二十代から四十代をいかに神社に向き合わせるかが課題であると一致した。

二日目には、神社本庁への要望などが議題となり、これからの遷宮諸行事等の参加に対して、なるべく早く連絡、通知をして頂きたいこと、またチラシ、リーフレット等を幅広くお知らせして頂きたい事などが進言された。

分散会終了後に改めて全体会にて各分散会からの報告があり、同じような報告が相ついで。中でも注目したのは「神職に対して教化をしなければいけない」と報告があり、教化委員会だけで頑張るのでは無く県内神職、総代からのお力添えが必要であると感じた。また、いろいろな配布物（リーフレット、冊子等）を配ることで安心していいないか、神職が言葉にて氏子、崇敬者に解散説明をする事が必要ではないかという意見もあった。

た。

さて、今後の教化目標として遷宮に対していかに周知するか、またご協力を仰ぐかを課題にして全会一致して終了した。

顧問 参与会

富士御室浅間神社

榎宜

濱

将

盛



この度、計らずも神職身分二級に昇級をさせて頂いた。またそれに伴い令和七年九月二十七日より、山梨県神社庁参与の末席に加わらせていただくこととなりました。

身に余る光栄に存じ上げると共に、大変恐縮であり、身の引き締まる思いでございます。私のような未熟者が、このような立場を拝命させて頂いたこと、偏に諸先生諸先輩方、平素よりの格別なご指導ご高配のお陰と、深く御礼申し上げます。

平成十九年に、縁あって富士御室浅間神社の権禰宜として奉職して以来、瞬く間に十八年の歳月が経とうとしております。

この目標を教化委員会だけでなく神職、氏子崇敬者にお知らせしなければ全く意味のない事になってしまふことを追記して報告いたします。

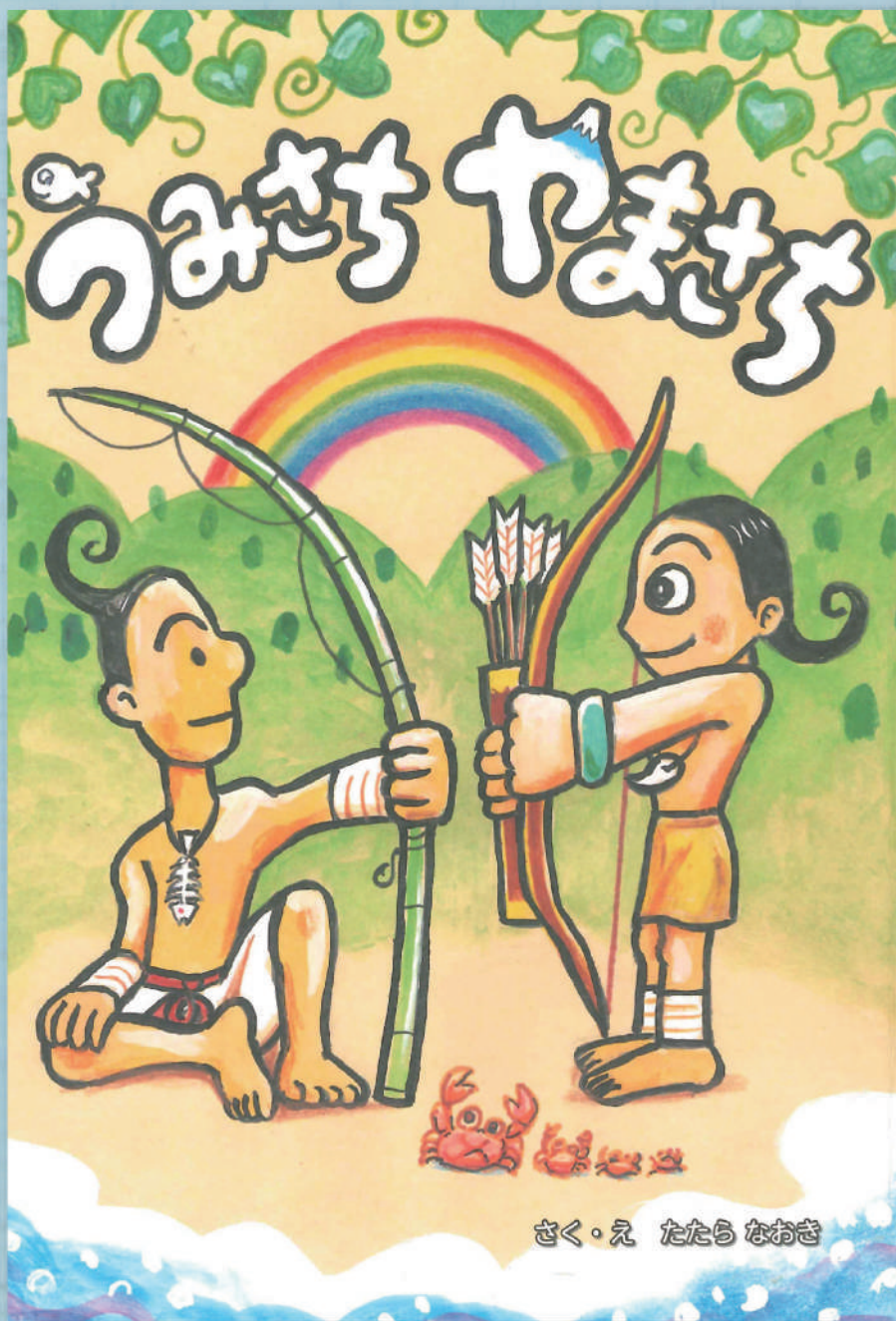
その間、第六十二回式年遷宮や、令和の御代替わり等の慶事、また新型コロナウイルス感染症の拡大の危機等、様々な出来事が起こる中、神職として変わらぬ祈りを捧げてこられましたことは、誠にご神威の賜物であると実感いたしております。

激動していく日本社会、及び国際情勢の中、第六十三回式年遷宮も愈々近づいてきております。及ばずながら一神職として、様々な事に取り組んでいかねばならないと決意しております。

甚だ浅学非才の身ではございますが、今後共、より一層我が国の隆昌、斯界の発展のために微力を尽くしてまいります所存でございますので、皆様方には尚一層のご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

絵本 日本の神話

うみさちやまさち (第四話)



お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。

「一般財団法人 日本文化興隆財団」提供
問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四一五十一
電話 〇三―五七七五―一四四五

一冊 二〇〇円



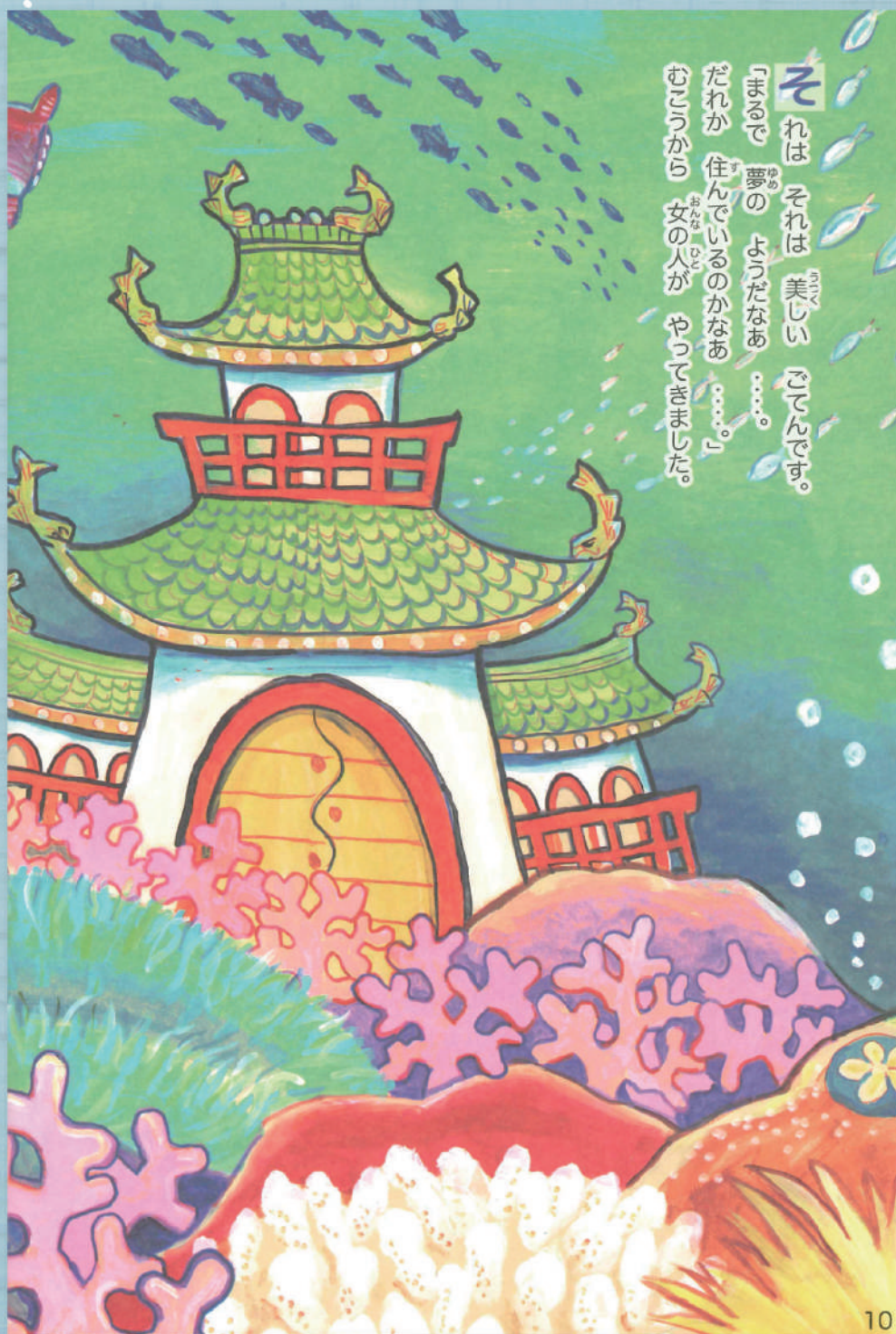
舟^{ふね}に のると すーい すい

すべるように すーい すい

そして ふかーく ふかく
もぐっていきます。

「ふしぎな 舟^{ふね}だなあ ……
それにしても 海^{うみ}の中^{なか}つて きれいだなあ ……
あつ、むこうに 何^{なに}か 見^みえる！」







甲府刑務所秋季慰霊祭

山梨県神職保護司 稲 葉 政 信

令和七年九月十九日午前十時、甲府刑務所において、秋季慰霊祭が斎行された。本慰霊祭は甲府刑務所の依頼により、山梨県神職保護司会が取りまとめて斎行するものである。祭典奉仕者は、斎主 飯田本庁教誨師、副斎主 宮下副会長、祭員 上文司監事、典儀 石原会長、雅楽は山梨県神道雅楽会の皆さま、笙・和琴 大嶋さん、箏 金子宮司兼神職保護司副会長、龍笛 中川宮司で、諸々設営手伝いで稲葉も参加をした。

慰霊祭の主祭神は、参列した被収容者三十四名に関わる被害者や家族知人で逝去された方々の御霊百十二柱であり、斎主により神籬に百十二柱の御霊代が供えられ、慰霊祭が始まった。まず修祓、副斎主により祓詞が奏上され、祭員によりお祓いとなされた。次に、降霊、斎主と副斎主の警蹕により、百十二柱の御霊が神籬に招かれ、副斎主により献饌、斎主が祝詞を奏上し、参列者皆で「追慕歌」を斉



唱し、斎主玉串拝礼、刑務所青柳処遇部長玉串拝礼の後、副斎主により徹饌、最後に斎主・副斎主により昇霊を行い御霊和めの神事が滞り無く終了した。

続いて、飯田斎主より被収容者に向けて、慰霊祭を通しての社会での人との関わり方、命は先祖より受け継いで今があり、その命は未来の子供たち孫たちに派生するとの尊い講話がなされ、次に金子楽人より、雅楽は千五百年の歴史を持つ最古のオーケストラであるとの説明と各管弦の音色を紹介し、慰霊祭全体の幕を閉じた。

神青協一都七県野球大会

神社庁野球部 監督 濱 武 尊

去る九月二十四日、大井ふ頭中央海浜公園野球場にて第二十九回一都七県神職野球大会が開催されました。今年は合同チームが二組あり、全部で六チームのトーナメントとなりましたが、昨年と変わらない盛り上がりとなりました。

さて、昨年二戦二敗しました山梨県としては、何とか今年こそは一勝はしたいところであり、今年はユニフォームも一新して爽やかな気持ちで大会に臨みました。結果から言えば昨年と変わらず二敗という残念なものとなってしまいました。エラーが減ったり、時にはダブルプレーを取ったりする場面もあり、昨年に比べ好プレーが増えたように思え、上達を感じたところです。

また、本来であれば二試合が終わったところで山梨県の出番は終わりとなっていたのですが、本年主管であり、同じくチームとしては出番を終えた茨城県より練習試合のお誘いがあり、希



望者で番外試合を行いました。審判もおらず、練習試合というよりは試合形式の練習といった方が正しいかもしれませんが、これぞ正に懇親だと強く感じた一時でありました。

最後になりましたが、大会に出場頂きました皆様、またそれを陰で支えて頂きました皆様にごの場を借りて御礼申し上げます。

支部・総代会だより

峡北支部

浅尾新田諏訪大神社

総代長 窪 田 幸 仁

地元浅尾新田の氏子の総代として、令和五年度より浅尾新田諏訪大神社の運営に初めて携わって来ました。氏子の総数は

一〇〇軒程で地元としては大きな地域です。私自身、地元には十年程前に戻り、以前は他の地域に住居を構えていた関係で、なかなか神社との関わりも無く、行事などに参加した回数も少なかったと記憶しております。前総代より引き継ぎを受け、令和五年、まだまだコロナウイルスの感染の終息がみえず、春秋、新年の祭りは神事のみのみしい記憶が残っています。令和六年、春祭りの打ち合わせにおいて今年度より五年振りの通常開催と決定し、神楽保存会による神楽の舞の披露、公民館運営委員による飲食の提供等がお

こなわれましたが、その際総代全員が未経験であり、どのような進行が良いのか十五所神社の篠原宮司の意見も聞きながら、以前とは違った進行を行う事になりました。その際神楽保存会の舞をおこないましたが桜の満開の中素晴らしい神事が進行し、その後の直会も大勢の老若男女の氏子関係者が集まり、餅投げお菓子等の配布があり盛り上がった中神事が終了しました。

運営するにあたり準備境内の清掃打ち合わせが想像以上に大変だったのと、終わった後の達成感、最後に関係者との反省会時私は皆さんの前で「感動した」と申し上げ労をねぎらった言葉述べました。令和六年の三回の神事、七年度の神事も無事に終わり安堵しております。大雨の中、雪が舞う中でも氏子の皆さんの笑顔は今も心の中にある、十五所神社の篠原宮司はじめ総代、区民の大勢の協力です。今年九月、境内の桜の幹回り五十センチの木が倒木した際の区民の協力も、総代にも限界が一杯です。

今年九月、境内の桜の幹回り五十センチの木が倒木した際の区民の協力も、総代にも限界が一杯です。

あつて協力を惜しまぬ姿も印象的でした。これまで総代の皆さんと運営し、地域の文化を継承する事の大切さ、無くしてはならないものかと思いは何物に代えがたいものだ改めて感じております。将来の神社運営を考えると、世代交代が進み勿論若い方が沢山いた方が良いでしょうが、総代として神社の歴史や先人達の努力を理解しながら今の時代に対応した運営を考える時期でもあります。時間は掛かるが変化している時代だからこそ改革が求められていると思います。

今回の経験はこれから地域で暮らす者として色々な場面において良い経験となりました。

南都留支部

副支部長 田 邊 将 之

当南都留支部に於いては「南都留神社関係者大会」と銘打ち、神宮大麻暦頒布始奉告祭を大々的に斎行しています。本年度の「南都留神社関係者大会」は令和七年十月三十日に行われまし

た。前日までに支部の事務局と若手が祭壇や必要な祭具・事務用品・配布物等を準備します。斎主・祭員・伶人の選出は支部会議にて諮られますが、委任され執行部一任で選抜されます。当日は執行部・事務局・斎主・祭員・伶人が午前十時に集合し会場である「ハイランドリゾートホテル&スパ」(富士吉田市内)に祭壇等を搬入し会場設営を行います。午後一時に習礼を行い着装し開始時間である午後三時を待ちます。来賓には県神社庁長・同顧問・同参事・県神社総代会長・富士吉田市長(本年はご欠席)をお迎え申し上げ参列者は管内神職総代・氏子青年会・敬神婦人会合せて約一三〇名程でありました。大会は三部構成で第一部が神宮大麻暦頒布始奉告祭、第二部が式典(総会)、第三部が直会(懇親会)です。

大変誇らしい盛大な行事ではありますが毎年盛会で開催出来ます事とは関係各位の深いご理解とご協力あってこそそのものと紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。報告とさせていただきます。

祭典を斎行して

厄神祭

穂見諏訪十五所神社

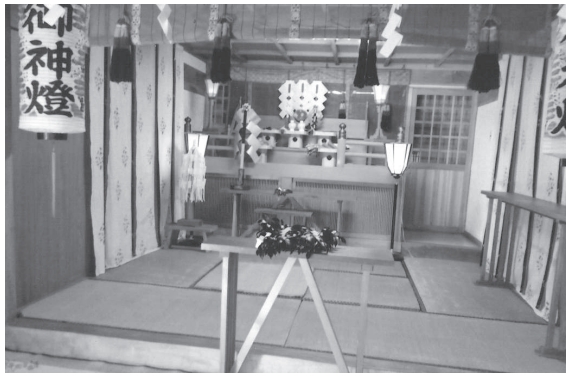
宮司 森 越 義 建

八ヶ岳の南麓に位置する、北杜市長坂上条に鎮座する三社を合祀する旧郷社、穂見・諏訪・十五所神社は例年の毎、一年の終わりの月、十二月六日午後二時、鎮守の森に清々しく鳴り響く太鼓の音を合図に、年内の種々災厄を除ける「厄神祭」の式典を、神社総代、世話人等が参列のもと厳肅に斎行いたしました。この祭りの起源は定かではありませんが、神社年中行事において斎行の記録が記されていることから少なくとも数百年前から行われて来た祭事と思われるます。

現在は厄年除けも加わりますが病気や様々な災厄除けと、国家国民の安寧を祈り、厳肅に執り行われます。

厄神（やくじん）疫神（えきじん）に対する信仰は古く、令義解には年中祭祀として「鎮花祭」が規定されています。

これが当社の厄神祭と性格を



同しくするものと考えられます。鎮花祭は春、当社では、これに對をなす冬、一年の終末期に重きを置き、厄神祭が行われてきたと考えられます。

古来より、年の節目に厄神、疫神に対するお祭りが行われて来たことが伺えます。

いずれにせよ、災厄をもたらす厄神、疫神に対し丁寧に祈り又祈祷、祈願を行うことにより、災厄を防ぐ靈威ある神へと変わるとの考え方に基づき斎行し、日々の生活の平穩を祈る祭りではないかと考えます。

筒粥神事

小室浅間神社

宮司 渡 邊 平 一 郎

私の奉職する小室浅間神社では、二つの古い神事がある。一つは九月の例大祭で斎行する流鏑馬神事、もう一つは正月に斎行する筒粥神事である。当社には代々占人と呼ばれる家系がある。流鏑馬の占人を馬占人、筒粥の占人を粥占人と呼ぶ。当社の筒粥神事は筒粥祭として斎行する。先ず一月十四日午後九時に本殿に於いて筒粥神事開始の祭儀を行い、その後筒粥殿に移動して神事を行うのである。粥占人と呼ぶ占人が正月の十日頃から準備を開始する。準備はまず粥占に用いられる道具類の制作からはじまる。釜の中の粥をかきまわす攪拌棒、粥の中に立てる粥柱、燐炭占いに用いる木のコマ、粥をとりわけける箸棒などが用意される、粥柱の下にはさみ込まれ、その中に入る粥の量によって判断される二十四本のヨシの茎は占人の渡辺家に家の庭にしめ縄を張って用けられた葭池の中で育てられた清浄なヨシを刈ったものでありこの渡辺家が営む葭池温泉もここから命名された。この二十四本のヨシが順番に、夕顔・大麦・蚕・小麦・麻・稲・晩生稲・キビ・粟・

晩生粟・小豆・ヒエ・晩生ヒエ・大豆・晩生大豆・芋・ソバ・菜の作物と当神社の筒粥占の特徴である富士山への道者の多少、次いで甲州・信州・駿州・相州・武州などからの登山者数の多少など二十四に分けて占いをするこの時、筒粥殿には宮司を始めとする神職・占人の渡辺家一族・神社総代と今日では本殿での筒粥祭に参列した一般見学希望者も入殿できる。本殿での祭儀の後、午後十時頃より大祓詞奏上の後着火して粥を炊き始める。通常午前一時位に仕上がるが、室内で薪を燃やしての作業な為ものすごい煙さがあり、マスクも三枚重ねでも真黒になる位で目も痛い大変な行事である。二十四本のヨシを割り、それぞれ筒の中の粥の入り量で吉凶を判断する。二十四種類の吉凶が占われて後、釜を本殿前に移し、残った燐炭で一月から十二月までの天気占う、準備で作った十二個のコマを燐炭の上に置いてその燃え具合により、晴れが多いのか雨が多いのか、風の吹き具合も同時に占う神事である。すべてが終わって明け方に神社から氏子、一般に公表される。長い伝統に培われた祭儀であるが、占人の渡辺一族の奉仕によるところが大きい祭儀である。

年男
年女

令和八年 丙午



人生七回目の干支を迎えて

北野天神社 宮司 進 藤 柏 男



昭和十七年長月八日山梨県北巨摩郡小淵沢村、父は山梨県庁職員、母は祖父母と稲作、養蚕農家の四人兄弟の長男として生まれ高校、専門学校を経て東洋のスイスと言われた諏訪の精密工場に就職、工作機械の設計技術者として青春を過ごしました。其の後故有りて、独立、精密工場を経営。バブル期を経てドルショック、オイルショックなど幾多の苦難を乗り越えて、今は長男に会社は譲り神職の修業を日指したのは地元北野天神社の神楽保存会で二十代から舞、太鼓などで奉仕していた当時の宮司さん以後継者としての資格取得を勧められて居りましたが、本業が忙しく、本格的に修業を始めたのは五十代に届くころでした。初学は京都國學院、次に東京の國學院大學、最後は神宮道場の修業でした。

この間平成二十三年三月十一日東日本大震災が発生、私は中堅研修会に茨城県大洗の磯前神社にて修行中でした、この日は三月とも言えども海岸で禊をするのに薄氷が張る程の寒さでした。当日は研修最終日という事で磯前神社に研修終了奉告祭を済ませ各先生方の挨拶、総代長の挨拶の中でこの地は過去津波の心配は無いとの事でした。昼に宿舎で直会をして午後大洗から帰りの電車に乗り柏駅当たりで地震に遭遇、電車は大揺れ、乗客全員に外に出るよう指示があり、駅前の跨線橋上は今にも橋が外れんばかりの有様でした。何とか揺れが収まり同行の志村宮司さんと今夜の宿を探そうと巷を防衛しましたがホテルは満杯でした。あても無く歩いてる中、柏市の緊急避難所が開設されて居り一夜の宿にありつけました。避難所では食料、毛布など提供されて、此の時程、人の情けを受ける事に感動した事は在りませんでした。二日後無事に帰途につくことが出来、此れも神明のご加護と感謝に堪えませんでした。艱難辛苦幾星霜の人生ですが、幸いにして昨年から後継者として孫が神職の資格を取得し未熟ながら峡北支部の手伝いをし、今年山梨県神社庁神殿新嘗祭のご奉仕を孫と一緒にさせて頂きこの上ない喜びと関係各位のご配慮に有難く感謝申し上げます。今後につきましては、「今暫くこの世に未練がありますれば人生百年時代、百里の道は九十九里を半ばとす。」を心して、田舎神主、世のため人の為尽くして神社護持に勤めて参ります。

令和八年に想う

菅田天神社 禰宜 今 澤 寛万呂



時の経つのは早いもので令和八年九月には、七十二歳となり五回目の年男となります。年を重ねる毎に、一時間・一日・一か月・一年を短く感じ、あつという間に時は過ぎ去ってしまいます。いつも時間を大切にしたいものだと思いますが、今のご時勢何かとせわしく、万人に平等に与えられた時間を疎かにしてしまっているのではないかと反省しきりの毎日です。

この年になると、体も至る所が悲鳴を上げ、内科・眼科・歯科・整形外科と毎日のように病院通いをしているのが実状です。こうなると、病氣と仲よく付き合っていくしかないと思います。健康第一、体が資本です。

日常の生活がままならない中でも、神への奉仕は誠心誠意務めなければなりません。東山梨支部の七社、東八代支部の六社計十三社の宮司を兼務する私にとっては、十三社中の一社ですが、氏子様にとってはその神社がすべてなので、一社一社丁寧に努めることが大切であると考えます。しかし、各兼務社は年に一回例大祭を肅行するだけの神社が少なくありません。例大祭のみではなく、元旦祭や祈年祭・新嘗祭・大祓式等、多くの祭事を肅行したいと考えています。また、諸祭も神様優先から地域優先へと変わり、四月の第一日曜日とか十月の第二日曜日等に行う神社が増えていきます。祭に子どもがいないのは寂しいもので仕方ないことかも知れませんが、出来るだけ従来の本日に行えるように働きかけていきたいと思っています。

結びに、今の日本は平和で安全な国になりました。その一要因として、日本人がとことん宗教に固執しないことが挙げられます。子どもが生まれると神社でお宮参り・七五三詣を行い、結婚式は教会で、葬儀は寺院で行うのが当たり前になっています。神社神道を啓発することとはもちろん重宝ですが、一部の特異な宗教を除いた他の正当な宗教とは、共存共栄を図ることも大切であると考えます。戦争もない平和な今を継続していくことが、子どもたちの輝く未来を保障していくことに繋がると信じています。一日一日を大切に、日々心を込めて奉仕していきたいと考えています。

年男を迎えて

住吉神社 権禰宜 森越靖幸

令和八年、四十七歳の年男として新たな一年を迎えるにあたり、これまでの歩みを振り返り、あらためて身の引き締まる思いであります。



私は、父が諏訪大社に奉職していたご縁により、長野県の下諏訪町にて生を受けました。幼い頃から神社が日常のそばにあり、季節ごとの祭典や地域に息づく伝統行事に触れながら育つた経験は、私の心根を形づくる大きな糧となりました。

高校卒業後には、神道を学び神明奉仕の道を志して熱田神宮学院へ進みました。学院での生活は、早朝から荘厳なる熱田神宮にて社頭奉仕に励み、午後は講義に臨むという恵まれた環境の中で厳しくも充実した日々を過ごし、同じ志を持つ仲間を支えられながら神職としての基礎を身につけ無事に資格を賜りました。

平成十年の卒業後は、静岡県の小國神社に奉職し、二十四年という長きにわたる奉仕のご縁をいただきました。この歲月の中では、毎朝の境内清掃から始まる日々のご奉仕、年間を通じた祭典奉仕や境内整備など多岐にわたる務めに携わり、神職としての姿勢や心構えを深く学ばせていただきました。これらの経験は、私にとりまして、まさにかけがえない大切な時間でありま

令和四年には実家のある北杜市大泉町へ戻り、代々お護りしてきた逸見神社の欄干として新たな奉仕の道を歩み始めました。さらに良きご縁をいたさうと、現在は甲府市の住吉神社に奉職し、日々の神明奉仕に心を尽くしております。

年男として迎える本年、これまで賜つてまいりました数多くのご縁に深く感謝しつつ、日々の祭祀に誠実に向き合い、氏子崇敬者の皆様とのつながりを大切にしながら、神職としての務めを一層丁寧に積み重ねてまいる所存です。


未だ至らぬ点多くございますが、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

年男を迎えて

武田神社 権禰宜 中村 讓



早いもので私が生まれてから、干支が三周もしてしまいました。一週目、二週目の年男の時には氣にも留めていなかったのですが、原稿の依頼を頂戴し思いを馳せる良い機会をいただいたと感謝する次第であります。



私は静岡県浜松市に生まれ、神社とは関係ない家庭で育ちました。高校時代に大学進学を考え、さて何を学ぼうかと思つていると目に留まりましたのが神道でした。高い志があったわけではありませんが、これも何かの縁とそのまま皇學館大学へ進学しました。両親や祖父母に神道を学びたいと伝えた時は目を丸くしていましたが、それでも反対せず快く背中を押してくれたことは今でも感謝しています。卒業後は現在もご奉仕させていただいております武田神社へと奉職を致しました。

山梨県へ来ましたのが平成二十五年、神職となり今年で十四年目に突入します。思い返せばあつという間の十三年間。短く感じる一方で、短い中でも山あり谷ありだったと感じます。慣れぬ土地で右も左も分らない私をここまで導いて下さいました諸先輩方に感謝を申し上げる次第でございます。それと同時に、これまで教えていただいた事を生かしているか、糧とできているのか自問自答する日々でもあります。

こうやって過去を振り返りますと、様々な感謝の思い出ばかりがよみがえります。本年も多くの方々に助けられながら過ごしていくことになろうか
 と思います。その一つ一つに感謝の気持ちを忘れずに、日々の神明奉仕に励んでいきたいと思っています。甚だ未熟者ではございますが今後ともご指導ご
 鞭撻の程よろしくお願いいたします。

神
殿
新
嘗
祭

峡北支部

藤原永起

山梨県はお米の収穫量こそ多くはないが、梨北米や幻のお米と言われる農林四八号など美味しいお米が作られる産地である。去る令和七年十一月五日山梨県神社庁神殿にて、そのお米を中心とする五穀の豊穰に感謝する新嘗祭が執り行われた。

輪番にて務める神社庁神殿の祭祀は、此度峽北支部がご奉仕の任となつた。齋主以下五名の祭司員にて齋行し、神前に和稻の初穂をはじめ種々の神饌を供え、県内氏子崇敬者の安寧と秋の実りに感謝の祝詞を奏し祈りが捧げられた。

令和の米騒動と言われる珍事が起こった本年であったが、日本人の米離れが露呈された様に見える。麺類やパンなど小麦からなる食をとることが増えた近年であるが、厳密にはそれらの小麦は古来の五穀に含まれない。そもそもお米を第一とする神道の考えはどこまで理解されているのであろう。教育の現場である学校で五穀豊穡と新嘗祭に関する授業が行われた。授業内容を聞くと五穀（稲・麦・粟・稗・豆）の栄養価について話されたという。地域の若者と話す機会があり、お米が神社にとって大

切であるという話になった。すると、若者は「神社では神様よりお米が大切なのですね」と訊ねてきた。一瞬言葉に詰まったが、丁寧に論じた記憶がある。

「日本書紀」の三大神勅にある齋庭稲穂は、天照大御神様がお米を広め食しなさいという宣であるが、今やそのことを知る日本人は関係者以外皆無であろう。新嘗祭は、伊勢の神宮を始め全国の神社で斎行され、神道にとつて最たる重儀である。美味しいお米の取れる山梨県の神社庁神殿にて奉仕することの意義と今更ながらではあるが、教化活動の重大さを感じるところである。各御社頭では、御神田を有し初穂や神酒を祭に供えるが、それは一年の人の動き、神社の祭祀の中心がお米だからである。米騒動を機に、米の国日本であることを儀礼と共に継承していくことは私達の責務であろう。



祭典日程

2	1	山湖州山中諏訪神社正一位山中出口稻荷神社初午祭、富士吉田市新屋湊神社節分追儺祭、富士吉田市上暮地神明社節分祭	4	5	山梨縣護國神社奉例大祭、御坂町二之宮美和神社奉例大祭、八代町北熊野神社奉例祭、甲府市下鍛冶町鈴貫諏訪神社奉例大祭、甲府市小瀬町天津宮神社奉例大祭、春日居町鎮目山梨國神社奉例大祭、中央市下浅利諏訪神社奉祭、折年祭、南アルプス市小笠原屋屋神社御幸祭、韮崎市穴山御名方神社奉例大祭
2	3	住吉神社節分追儺式、稲積神社節分祭、甲府市中央大神宮御祭、甲府市中央大神宮節分祭、甲府市柳町大神宮節分祭、追儺祭、忍野村名草浅間神社節分祭、忍野村内野浅間神社節分祭、山中湖村山中浅間神社節分祭	4	10	富士川町鰻沢八幡神社大神幸祭、(十五)
2	8	稲積神社針供養祭、御坂町二之宮美和神社湯立祭	4	11	甲府市善光寺崇光神社奉例祭、富士吉田市大明見小室浅間神社奉例大祭
2	11	甲府市宮前町八幡神社建国祭、甲府市国玉町玉諸神社建国祭、折年祭	4	12	武田神社奉例祭、甲府市宮前町八幡神社奉例祭、市川三郷町宮原浅間神社奉例祭、(河内)御幸、酒折宮獻詠祭、南アルプス市下宮地神社御幸祭、藤井町町長下條福地八幡神社奉例大祭、長坂町町長上条徳見諏訪十五所神社奉例祭、大月町花咲稲村神社奉祭大祭、飯岡町浅利神田神社奉祭大祭
2	15	酒折宮祈年祭、身延町八日市場八幡神社奉祭、厄除祈願祭、南アルプス市上今諏訪諏訪神社祈年祭、韮崎市穴山町穂見神社祈年祭	4	13	武田神社奉例祭、甲府市朝気熊野神社交通安全祈願祭
2	17	塩山・萩原神社社祈年祭、富士吉田市松山松尾神社祈年祭、忍野村忍草浅間神社祈年祭、忍野村内野浅間神社祈年祭	4	15	甲斐國一宮浅間神社奉例大祭、大神幸祭、甲府市中宿斐奈神社奉例祭、甲府市国玉町玉諸神社奉祭、三柱神社幸祭、御坂町二之宮美和神社社奉祭、富士川町鰻沢八幡神社奉例大祭
3	2	忍野村名草浅間神社簡粥祭並びに秋葉祭、忍野村内野浅間神社簡粥祭	4	18	金櫻神社奉例大祭、(十九日)、大嶽山那賀郡神社奉例大祭、生出神社興宮祭、富士吉田市浅間富士浅間神社奉例大祭、富士吉田市山間富士浅間神社奉例大祭、富士吉田市松山松尾神社奉例祭、忍野村内野浅間神社奉例祭、(十九日)、初狩町下初狩八幡神社奉例大祭
3	15	甲斐國一宮浅間神社山宮神社奉祭、甲府市柳町町密神社奉祭、奉皇靈祭、一宮町橋立甲斐奈神社奉例大祭	4	19	甲府市玉六切大神奉例大祭、甲府市国玉町玉諸神社郷土の祭り神輿巡行、上野原市桐原軍刀神社奉例祭、甲府市高畑住吉神社奉例大祭、甲府市長岡長土塚神社奉例大祭、富士吉田市浅間富士浅間神社奉例大祭、富士河口湖町浅川白山神社奉例祭
3	20	住吉神社奉祭、一宮町橋立甲斐奈神社奉例大祭			
3	29	勝沼町菱山古宮大神社奉例大祭、一宮町末木兩之木八幡宮奉例祭			
3	31	塩山・萩原神社奉例大祭			
4	3	石和町市部石和八幡宮奉例大祭、山梨市徳重土神社奉例大祭、春日居町鎮目山梨國神社奉例大祭、勝沼町春日居町鎮目社奉例大祭、石和町川中島比枝神社奉例大祭、南アルプス市吉田諏訪神社奉例大祭			

山梨県神道青年会創立七十五周年記念事業 「グアム南太平洋戦歿者慰霊祭」

山梨県神道青年会 会長
同 実行委員長

小 佐 野 正 崇

先ず以つて祖国の礎として戦下に散華せられた全戦没者に対し、追悼と感謝の誠を捧げたいと思う。

去る令和七年十一月二十六日、本年戦後八十年を迎えるに当り、祖国日本を守るために玉砕した英霊の御霊を慰め、今日ある繁栄と平和を報告し感謝の誠を捧げることを目的に「グアム南太平洋戦歿者慰霊祭」を斎行した。本事業は南太平洋に散った多くの英霊に対し、慰霊祭を営むことによつて少しでも英霊の思いに触れ、平和と大東亜戦の意味を考え、青年神職としてのあり方を今一度問い直したいとの思いから、当会創立七十五周年記念事業の一環として企画したもので、当会会員八名が参加した。

十一月二十五日、成田空港にて結団式を行い目的地であるグアム島へ向かった。翌二十六日午前十一時、グアム島ジゴにあるグアム平和慰霊公苑に於いて当会創立七十五周年実行委員会丹沢祭典委員長が斎主を務め

慰霊祭を斎行。南太平洋戦歿者慰霊協会を代表して参列された同協合理事の時任佐絵子氏は「神社界からこの場所へ慰霊祭に来られたのは記憶の中では初めてではないだろうか。我々がいまこうして幸せに暮らしているのも命をかけて国を守つてこられた英霊たちのおかげ。私たち管理者としても、いつ誰が来ても戦歿者へ手を合わせられるよう、この施設を維持していくことを誓う。」と述べた。当会としても、終戦から八十年が過ぎ遺族の減少とともに戦争の記憶が風化されることが懸念されるなか、我々は慰霊に祈りを捧げることはもちろんのこと、英霊達のおかげでいまの平和な我が国があることに感謝し、引き続き英霊顕彰を行い、十年、二十年先を見据えてこの想いを次の世代へ継承していくことを慰霊碑の前に誓った。祭典後はグアム島最期の決戦地である又木山戦闘司令部壕跡を訪れ、会員と共に手を合わせ、この地で玉砕された御霊が安らかならん

ことを願った。

午後には太平洋戦争記念館ビクターセンターを拝観し、日米両軍における激戦の記録を先住民であるチャモロ人の悲惨な記憶と共に学んだ。その後、平成二十九年にグアム政府庁舎内に建立されたグアム鎮魂社を参拝し、当時激戦区となつたアサン展望台を訪問。此の地での犠牲者のことを考えると胸の詰まる思いが致し、マンガン山に遺る第二十九師団司令部跡を始めとする戦跡を順次巡るにつけ、先の大戦の記憶を風化させず次世代に語り継ぐ重要性を再認識せずにはいられなかった。

戦後八十年が過ぎ、遺族や戦友の高齢化に伴い直接の関係者は減少の一途を辿っている。自分の縁者にも必ず英霊がおられるということを認識し、鎮魂の心をいつまでも伝えることが日本人の責務だ。祖国を守る為に必死に戦い、散つていかれた英霊によつて今の平和な日本があることを我々は決して忘れてはならない。

春には桜の花が咲き、秋には菊花が薫るこの美しい国を愛し守っていくのは私たちの使命ではないだろうか。英霊への感謝を胸に、そして世界中の平和を願つて。



今後の予定

○神社庁神殿祈年祭並びに 教化講演会のお知らせ

神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会を左記の日程で肅行いたします。

一、日時 記

令和八年二月十日（火曜・仏滅）

一、日程

神殿祈年祭 午後一時三〇分

教化講演会 午後三時

一、講師

皇學館大學研究開発推進セン

ター助教

小林 郁 先生

一、場所

山梨県神社庁 神殿



○靖國神社、山梨縣護國神社 参拝旅行

神道政治連盟山梨県本部では、恒例となりました靖國神社参拝旅行を左記の日程で実施致します。詳細な内容につきましては現在検討中ですので、決まり次第ご案内致します。山梨縣護國神社の参拝につきましては、別途開催致します。

記

一、日程

令和八年三月二十六日

（木曜・先負）



○杜のこども会

教化委員会では、緑陰こども会を夏休み期間に開催しておりますが、近年は酷暑の為、試験的に春休み期間に開催します。

記

一、日時

令和八年四月二日（木）

一、場所

いちのみやかしんじや
一宮賀茂神社

身延町下山二六五一

一、内容（参加費無料）

- ・ 神様にお参り、雅楽鑑賞
- ・ 竹で箸作り、勾玉作り
- ・ お昼はカレーライス



神棚差し上げます

山梨県神社庁

TEL 〇五五―二八八―〇〇〇三



神社庁
ホームページ